



大宮小だより

令和6年5月10日
大宮小学校通信 第2号
校長 加藤 真也

【学校教育目標】自ら学び、心豊かで、しなやかに生きる子どもの育成

新学期がスタートしてから早や1か月が経ちました。色鮮やかな若葉・新緑に飲み込まれてしまいそうです。前後半で7日間のゴールデンウィークも終り、とんがり帽子の校舎に子どもたちの元気な声もどってきました。

価値付ける生徒指導 ～価値語の取組で、よい姿を全校に広める～

本校では、児童が、よりよい生活態度やこれからの社会を生きる上で必要な規範意識を身に付け、自己肯定感を高めることを意識した指導を行っています。例えば、ほめる場面では「〇〇さんは、背筋が伸びていて、きちんと話している相手を見て聞いていますね。」のように、子どもたちの行動を価値付ける(評価し視点を与える)指導です。さらに、全職員で協力しながら、子どもたちのよい姿を写真に撮り、タイトルとなる価値語と伝えたい価値について載せたポスターを作成し、掲示する取組を続けています。そして、子どもたちには、価値語に友だちがのっているのを見つけたら、ぜひほめて、その子のよさを自分の行動にも生かしていくよう呼び掛けています。社会生活を送るうえで共有していきたい価値ある行動を可視化することで、多様な価値観を認め合いながら、主体的に行動する子どもたちの姿を今後も見取り続けていきます。2022, 2023年度の価値語については、本校の会議室前に掲示してありますので、ぜひ、ご覧ください(大宮小ホームページにも掲載中です)。



さあ 私たちの時代だ!! 目線が出会うと 心も出会う 大宮小は 私たちがつくる

新たなリーダーとして、これから大宮小学校を引っ張っていく。決意新たに、今こそ、踏み出すとき。

相手と目線を合わせることは、相手に心を合わせること。「見ているよ」、「聞いているよ」って伝えること。相手に目線と心を合わせて接することのできる人になろう。

代表委員会、ここでは学校をよりよくするために、みんなで意見を出し合って考えている。ここは、私たちの大宮小学校。大宮小学校は、私たちがつくる。

5月の行事予定 6年生は修学旅行に向けた準備を To Do リストで進捗管理!

- 7日(火) 家庭訪問(滝原)・避難訓練 8日(水) 家庭訪問(阿曾)・地域学習(4・5年 田植え)
- 9日(木) 家庭訪問(その他)・歯科検診 13日(月) 地域学習(2・3年 花植え)
- 14日(火) 第1回学校運営協議会 16日(木) みえスタディ・チェック(5年)
- 17日(金) みえスタディ・チェック(4年) 20日(月) 租税教室(6年)・クラブ活動(4~6年)
- 21日(火) PTA 本部役員会・委員会 22日(水) 尿検査・校外学習(4年 香肌奥伊勢資源化プラザ)
- 23日(木) 修学旅行(6年 奈良・京都)・遠足(1~5年 大内山動物園・大内山酪農)
- 24日(金) 修学旅行(京都) 27日(月) 委員会 28日(火) 代表委員会
- 30日(水) 内科検診・耳鼻科検診 31日(金) 引き渡し訓練



新聞を読もう！～学校図書室に小学生新聞を配備～

文部科学省は、第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」を実施し、公立小中高校の学校図書館への新聞配備を推進しています。この計画では、地方財政措置（地方交付税）を増額し、小学校の図書室に新聞2紙分を配備するための予算を拡充しています。そこで、本校でも今年度から小学生新聞2紙（日刊と週刊）を購入し、活用を始めました。教科書だけでなく、新聞を手にする機会が増えることで、新聞を通して、子どもたちに教科書や授業で学んだことが、社会とつながっていることに気づいてほしいと思います。今まで知らなかった世界に出会うことで、自ら知識を得る楽しさを知り、子どもの学びの姿勢をより主体的にしていこうと考えています。現在は図書委員会が中心となり、新聞に目を通し、面白いと感じた記事を記録したり、読んでほしい記事や特集を掲示したりしながら、子どもたちがより新聞に親しむ環境づくりに努めています。



田植え体験 ～人とホタルの元気な里地づくりプロジェクト～

5月8日（水）、4・5年生は滝原頓登の学習田で伝統的な手植えの田植えを体験しました。この学習は、「人とホタルの元気な里地づくりプロジェクト」の柏木昭久さんと出口眞市さん、地域のみなさんに支えられ平成23年から実施されてきた地域体験学習です。昨日までの雨は上がり、肌寒い風を感じながら、子どもたちはゴム足袋に履き替え、田んぼに入りました。「苗を3～5本取って、指の第2関節くらいまでぐっと植えるんやで」田んぼの端から端まで渡された紐に付けられた赤い目印をたよりに苗を植えていきます。はじめは恐る恐るで動作もぎこちなかったですが、田んぼの3分の1を植え終わる頃には自信に満ちた動作に変わっていました。「苗をくださいー！」「こっちにもお願いします！」投げ込まれる苗によって田んぼから泥が跳ね上がると大きな歓声が上がります。子どもたちの表情は笑顔に溢れ、シャツやズボンも泥だらけになっていました。「田んぼの泥は洗濯してもなかなか取れへんのさな。お家の人もたいへんや」最後まで子どもたちの活動を温かく見守っていただいた地域のみなさん。今後、かかしづくり、稲刈り、米の販売、もちつきなどの活動を通じ、米作りや地域で生きる方々の思いを学んでいきたいと思っています。引き続きご指導とご協力をよろしくお願いします。



新型コロナ「5類」移行から1年 ～健やかな体づくり・体力の向上～

新型コロナウイルス感染症が、感染症法上、「5類」に移行されてから早や一年がたちました。約1年前には、国内で約3,400万人の方が感染され74,000人を超える方がお亡くなりになったと報告されていた新型コロナですが、「5類」移行を契機に「密閉・密集・密接」を回避していた学校生活が変化していきました。コロナ禍では制限を受けた校外学習や地域と方とのふれあいも積極的に実施しています。しかし、新型コロナが消滅したわけではありません。手洗いや消毒の習慣、適切な換気やマスクの着用等、身に付けた感染症対策は今後の生活でも大切にしていきたいと考えています。ご家庭でもこまめな検温による体調管理を継続していただいております。たいへんありがとうございます。今後も、子どもたちの健やかな体づくりと体力の向上のため、家庭と学校が連携して取り組んでいきましょう。